

WBC優勝以来、今まで以上に大谷翔平選手の活躍に注目が集まり、報道も過熱気味である。数年前に、その大谷選手に、イチローさんがアドバイスをしていた言葉がある。

無理がきく間は無理をしたほうがいい

私もそう思う。無理をすることは大事である。無理をするから実力が養われる。しかし、無理がたたって、へたり込んでしまうような無理はしないほうがいい。そのバランスを自分で見極めながら無理をすることが向上につながる。

「無理」という言葉は、もともとは道理・理屈・理由などが無いという意味だった。ここから、無理な注文、無理難題といった言い方が生まれている。また、自分の依頼が相手に迷惑をかけるという意味で、ご無理を申し上げますが、といった言い方もよく使われてきている。

こここのところ、「無理」という言葉の使われ方が変わってきている。伝統的には、実現させるのがほぼ不可能な場合、強引に実現させると大きな問題が起こる場合などに用いられてきた。ところが、若い人を中心に、やろうとすればできるかもしれないが、やりたくない場合にも使われるようになってきている。

あるいは、「なに食べる?」「パスタはきのう食べたから無理」つまり、無理という言葉のもつ意味が軽くなってきている。

教員の間でも、残念ながら「無理」という言葉をよく耳にする。特に気になるのは、3月の「無理」である。こちらが、仕事や役割を依頼する。「無理です。できません」この無理は、やろうとすればできるかもしれないが、やりたくない場合に使われる無理に近いのではないか。やろうとしないところが気になる。

イチローさんが、大谷選手に贈った「無理」は、実現させるのがほぼ不可能な場合に近い意味だろう。本当は、若い方には、「無理がきく間は無理をしたほうがいい」と言いたい。「若いときに流さなかった汗は、老いてから涙となる」これも同じようなことだろう。無理がきく間は、ということ、無理がきかなくなるときがくるということである。これは、実際にそうなる。そう考えると、30代半ばぐらいまでは多少無理してでもがんばったほうがいいと思うのだが、どうだろう。

今は、働き方改革が進んでいるときであり、「無理をしたほうがいい」とか「無理をしてください」などとは言えない。言えないので、書いている。50代以上の方々の中には、若いときに、それこそ無理をしてきた人が多いのではなからうか。それが、その人の人生を支えているのではあるまいか。

大谷選手は、イチローさんのアドバイス通りに、無理がきく間は無理をするはずである。そもそも、二刀流と称される投手と打者、ともに高いレベルで活躍していること自体が、実現させるのがほぼ不可能な場合、強引に実現させると大きな問題が起こる場合にあたる。やっぱり、大谷選手はすごい。ある意味、無理のスペシャリストである。